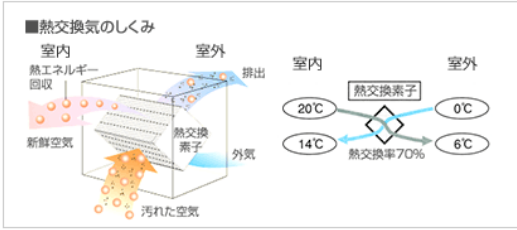
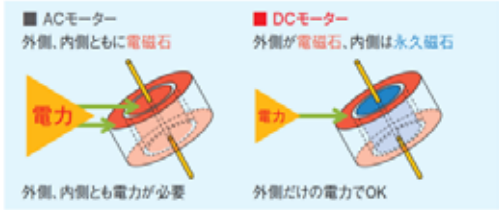
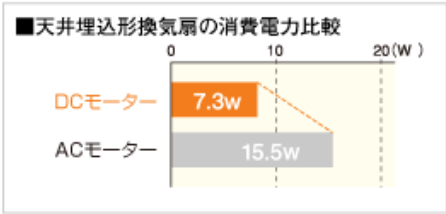


最終更新日 H24.10.24
改修技術 No. 12501007

性能分野	環境・省エネルギー性能				
大分類	設備機器の節エネ・高効率化				
中分類	高効率化				
技術の名称	換気設備の高効率化				
改修技術の概要	<p>【改修工事の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省エネ改修を実施すると、一般的に気密性能が向上するため自然換気量が減少し、必要な外気導入量が得られない可能性があるため、省エネルギー改修時に全般換気設備（24時間換気）導入と換気設備の高効率化により省エネルギーを図る。 <p>【各設備の高効率化の特徴】</p> <p>全熱交換型換気扇に交換する。 室内換気を行う際に、排気されてしまう室内の熱と湿気を有効利用する装置。この熱を利用することにより、室外から取り入れる外気を室内の温湿度に近づけ、冷暖房負荷を軽減する事により省エネルギーが可能となる。</p> <p>DCモータ式換気扇に交換する。 DCモータータイプは、ACモータータイプに比べ実使用時で最大30～50%の消費電力を削減できる。</p> <p>回転子に永久磁石使用し低消費電力で運転可能</p>				
	  	<p>DCモーター消費電力比較</p> <table border="1"> <tr> <td>DCモーター</td> <td>7.3w</td> </tr> <tr> <td>ACモーター</td> <td>15.5w</td> </tr> </table>	DCモーター	7.3w	ACモーター
DCモーター	7.3w				
ACモーター	15.5w				
共同住宅のタイプごとの技術の適用	技術の種類	調査・診断技術 改修技術（劣化を補修する技術 性能を向上させる技術）			
	共同住宅のタイプごとの適用可能性	S55年以前供給 中層階段室・壁式(総プロA1)	使われる可能性が相当ある		
		S55年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)	使われる可能性が相当ある		
		S56～H2年供給(総プロB)	使われる可能性が相当ある		
		H3～12年供給(総プロC)	使われる可能性が相当ある		
		H13年以降供給(総プロD)	使われる可能性が相当ある		
(補足)					

< 出典：上図3点 Panasonic(株) >

常にセットで利用される技術		
技術が適用される建物の部位		共用部分 (躯体・外壁 屋根 建具 設備・配管等 その他共用部) 専有部分 (設備・配管 その他専用部分) [設置・運営等で建築基準法以外に注意すべき主な法令がある設備 () 注意すべき主な法令 ()]
団地で適用した場合のメリット		住棟まわりの土地が利用できること(仮設以外)() まとまった土地が利用できること(仮設以外)() 住宅の数が多く密度が高い() 特定の設備があること()
足場の設置が必要		必要 不要 ()
工事による居住者への影響	数日以上居住できない住戸が発生	該当 非該当 ()
	一時的な影響が発生	断水などライフラインが一時的に利用不可 振動 騒音 粉塵 臭気 その他専有部分又は専用使用部分に対する制限 (一時的に施工する部屋の利用不可)
	工事後に続く影響が発生	専有部分又は専用使用部分の使用に対する制限() 日照・採光等への影響()
当該技術が利用される工事		計画修繕工事(劣化の補修 性能の向上) 耐震改修工事(耐震性の向上 他の性能の向上)
技術的限界		
参考資料	技術情報	
	価格情報	・「建築コスト情報」(一財)建設物価調査会